

## マダニが媒介する感染症（「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」） の注意喚起について

県内において、今年2例目の「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」が発生し、今年初めての死亡例が確認されました。

- 感染経路：**主にSFTSウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されている。
- 症 状：**発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）を主徴とし、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状を伴う。  
血液所見では、血小板減少、白血球減少、血清酵素（AST、ALT、LDH）の上昇が認められる。  
致死率は10～30%程度
- 潜伏期間：**6～14日
- 治療 予防：**現在のところ有効な薬剤やワクチンはない。  
ダニに咬まれない対策  
咬まれたり、症状が出た場合は、早期に医療機関を受診のこと。

図1 2013年3月4日以降に発症したSFTS症例の発症時期  
（全国 N=253,2017年6月28日現在）  
（届出対象となる日時以前の8例及び発症日の記載のない5例を除く）  
（徳島県 N=22,2017年7月13日現在）

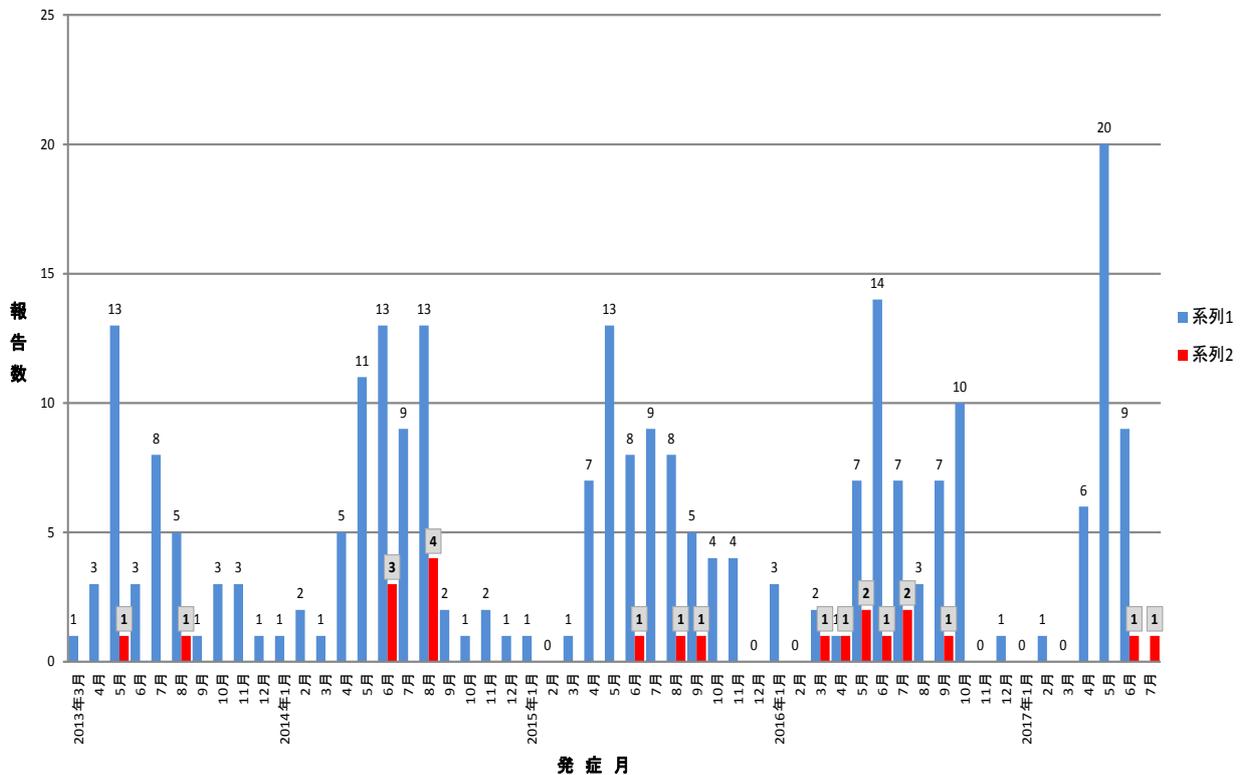


図2. SFTS症例の届出地域 (n=266, 2017年6月28日現在)

